

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第2期越生町まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

埼玉県入間郡越生町

3 地域再生計画の区域

埼玉県入間郡越生町の全域

4 地域再生計画の目標

本町の人口は、国勢調査によると平成12（2000）年の13,718人をピークに減少しており、令和2（2020）年には11,029人まで落ち込んでおり、住民基本台帳によれば、令和8（2026）年1月には10,516人となっている。国立社会保障・人口問題研究所によると、令和27（2045）年には総人口が6,975人となる見込みである。

年齢3区分別の推移を見ると、年少人口及び生産年齢人口の割合は減少を続けており、平成27（2015）年から令和2（2020）年では、年少人口の割合は10.0%（1,169人）から8.5%（933人）に減少し、生産年齢人口の割合は59.0%（6,906人）から55.2%（6,055人）に減少している。一方、老年人口は31.0%（3,633人）から36.3%（3,984人）に増加しており、総人口に占める年少人口及び生産年齢人口の割合は年々低下し、少子高齢化が進展している状況にある。なお、令和7（2025）年10月では年少人口は7.2%（763人）、生産年齢人口は53.2%（5,638人）、老年人口39.6%（4,191人）となっている。

自然動態について、出生数は減少傾向にある一方、死亡数は高い水準で推移しており、令和5（2023）年では出生数が41人、死亡数が185人で、144人の自然減となっている。また、合計特殊出生率は1.04となっており、全国の1.20、埼玉県の1.14を下回っている。

社会動態について、令和5（2023）年は、転入615人、転出656人で転出超過は41人となっている。一時的に転入超過となった令和3年度を除き、平成14年から

毎年 80 人程度の転出超過で推移しており、社会減が続いている。このように人口減少は、出生数の減少（自然減）と転出者の増加（社会減）等が原因と考えられる。

今後も人口減少や少子高齢化が進むことで、地域における担い手不足やそれに伴う地域産業の衰退、さらには地域コミュニティの衰退等、住民生活への様々な影響が懸念される。

これらの課題を解決するため、越生町まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、雇用の創出や交流・関係人口の増加、結婚・出産・子育て支援、安全安心で魅力あるまちづくりを推進し、転出抑制と移住定住を促進することで人口減少に歯止めをかけ、持続可能なまちづくりを目指すこととする。なお、これらに取り組むに当たっては、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げ、目標の達成を図る。

基本目標 1 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

基本目標 2 越生町に住む・通う・訪れる人の流れを生み出す

基本目標 3 里山を活かした地域のしごとを育てる

基本目標 4 安心して暮らせる魅力的な地域をつくる

【数値目標】

5-2の ①に掲げる事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2030年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	合計特殊出生率	1.04	1.05	基本目標 1
イ	社会動態 観光入込数	△41 59万2,000人	△37 60万人	基本目標 2
ウ	1人当たりの町民所得 うめその梅の駅への出荷 者数	236万円 173人	248万円 175人	基本目標 3
エ	健康寿命 住民意識調査で「道路・交	男性18.54年 女性20.93年 26.2%	男性19.70年 女性21.67年 20.0%	基本目標 4

	通の便が悪い」と回答する割合			
--	----------------	--	--	--

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

第2期越生町まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 結婚・出産・子育てをかなえる事業

イ 越生町に住む・通う・訪れる人の流れを生み出す事業

ウ 里山の魅力を活かした地域のしごとを育てる事業

エ 安心して暮らせる魅力的な地域をつくる事業

② 事業の内容

ア 結婚・出産・子育てをかなえる事業

結婚、出産、子育てを選択した人が「越生町で結婚し、こどもを育ててよかった」と感じてもらえるよう、切れ目なく支援する事業

【具体的な事業】

- ・ 出会いの機会の創出
- ・ 地域子育てサポート体制の充実 等

イ 越生町に住む・通う・訪れる人の流れを生み出す事業

関係人口の増加を促進し、移住定住の契機につなげるとともに、本町に移住を考えている人の定住支援を行うなど、越生町に人の流れをつくる事業

【具体的な事業】

- ・ 観光イベントの開催

- ・お試し住宅の活用
- ・空き家バンク推進 等

ウ 里山の魅力を活かした地域のしごとを育てる事業

特産果樹である梅やゆずのブランド化、6次産業化に取り組むほか、スタートアップが育ちやすい環境を整える事業。

【具体的な事業】

- ・果樹栽培技術の革新
- ・特産果樹のPRイベントの開催
- ・創業等支援 等

エ 安心して暮らせる魅力的な地域を生み出す事業

越生町の地域特性に即した地域づくり、高齢化や人口減少に対応したまちづくりを進め、安全安心な生活を維持する事業

【具体的な事業】

- ・実情に即した地域公共交通体系の構築
- ・自主防犯活動、自主防災活動への支援
- ・健康長寿プロジェクトの推進 等

※なお、詳細は第3期越生町まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

900,000千円（令和8（2026）年度～令和12（2030）年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度8月頃に外部有識者が参画する越生町まち・ひと・しごと創生有識者会議において取組報告と効果検証を行い、必要に応じて翌年度以降の取組方針を見直すプロセスを実行する。検証後は本町ホームページで公表する。

⑥ 事業実施期間

令和8（2026）年4月1日から令和13（2031）年3月31日まで

6 計画期間

令和8（2026）年4月1日から令和13（2031）年3月31日まで